

[CASE 03]

鈴木 北斗さん

上山市消防団 団本部 ラッパ隊

みんなが暮らす街だから 困っている人のもとへ駆けつけたい



も

ともと人の役に立つことに喜びを感じるタイプ、と自己分析する鈴木さんは、上山市消防団団本部のラッパ隊に所属。およそ13年間にわたって活動を続けており、入団のきっかけは、趣味でボランティア活動をしていた“羽州上山城武将隊”でした。

「せっかく県内で唯一“模擬天守”があるお城ですから、甲冑武者がいた方がもっと盛り上がると思って。そしてある時、隊長に消防団をやってみないかと声をかけていただいたんです」

地域に向けられたまなざしはごく自然に消防団活動にも向かっていき、数年前には応急手当指導員の資格なども取得。まさに防災・減災につながる活動を、草の根的に続けています。

「ラッパ隊は出初式などの式典で演奏することのほか、有事の際には“縁の下の方持ち”として各消防団の後方支援という役割です。自分が生まれ育った場所ですし、みんなが安心して暮らせる街になってほしいと思っています。暮らしを守るために貢献できていると思えることが、消防団活動の何よりのやりがいですね」

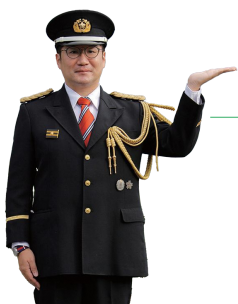
Q1 仕事と両立できますか？

もちろんできます。私自身も会社勤めのため、平日の日中など仕事には出勤できない場合があります。それに消防団活動は誰かに強制されるものではありません。“やろう”という気持ちの人が集まったの活動なので誇りをもって取り組みますし、より深く地域のことが知れて郷土愛も深まります。

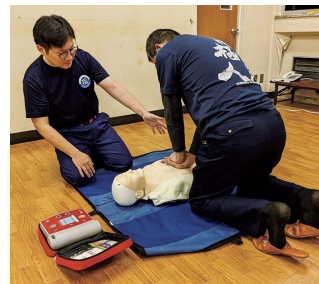


Q2 プライベートの時間は確保できますか？

たとえば1年中すべての週末が埋まるわけではないので、私は特にストレスを感じたことはありません。コロナ禍で減ってしまいましたが、甲冑をつけて来場者を楽しませる“羽州上山城武将隊”の活動や、仲間とバイクでツーリングするなどの時間はしっかり確保できています。



興味のきっかけは“制服がかっこいい”など、どんな小さなことでも良いと私は思います。少しでも興味がわいたら、ぜひお近くの消防団へ！



1
2 | 3

1. 式典で演奏を披露するラッパ隊。スネアドラム(小太鼓)が鈴木さんの担当。
2. 上山市総合防災訓練の様子。水害を想定し、上山市の地図を確認しています。
3. 応急手当指導員としてAEDの使い方をレクチャーします。